

	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1 年全コース	体育 I	高橋 人美	
サブタイトル	身体運動の基礎知識と動きづくり	単 位 数	1
授業形態	講義		
開講時期	前期	出席要件	4 / 5 以上
到 達 目 標			
1. 保育者としての健康維持や体力の必要性を理解する。 2. 身体運動の基礎的な理解と指導・援助方法について理解する。 3. 幼児体操の基礎的な知識と指導法について理解する。 4. 身体表現活動の多様性と豊かな感性を磨く姿勢を養う。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
特に「保育に関する基礎的な知識や保育技能を修得し、保育の場に応用して発揮できる」ことを目指す科目である。 これまで経験してきた体育との違いを認識し、保育者としての視点で科目を捉え、授業内容の修得を目指す。			
授 業 の 方 法			
1. 自己の身体を知り、保育者としての視点で科目を捉える。 2. 幼児の発達、運動機能を理解することで、より具体的な指導・援助法を学習する。 3. 振り返りシートを活用する。			
テキスト・教材・参考図書			
必要に応じて資料を配布する。			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
1. 保育者になって活用できるノート 2. 課題レポート（振り返りシート） 3. 授業内試験（個人とグループ評価） 以上のことを総合的に評価する。		小テスト	50%
		レポート	50%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
1. 心身の健康管理をする 2. 教科専用のノート（A4ノート）を用意し、毎時間の授業内容を記録する。 3. 課題レポート（振り返りシート、教科ノート等）は提出期限を厳守する。 4. 授業に関する注意事項を必ず守り受講する。			

科 目 名 体育 I

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	ガイダンス ・授業内容の説明と受講上の注意事項について 運動と体力 ・体力、運動能力の低下傾向を学び、万歩計を活用しての自己管理を考える	授業内容の理解 安全管理の姿勢 健康管理の姿勢 日常生活での意識改善
2回	保育者の健康維持・増進 ・保育者に必要な体力を考え、体力維持、向上の実践方法を学ぶ	保育現場での必要性への理解
3回	運動の可動範囲 ・身体の各部分動作を理解する ・身体のパーソナルスペースとフロアパターンを理解する	身体運動の理解 身体の可動範囲の理解
4回	運動の要素 ・運動の三要素（時間・空間・力）から身体運動を理解する ・エフォートアクションを学ぶ	運動の三要素の理解 身体運動の意識
5回	幼児の体操のねらい① ・生活に即した模倣の動きを学ぶ	体操の基礎的知識 指導法の理解
6回	幼児の体操のねらい② ・発達に合った動きを理解する	体操の基礎的知識 指導法の理解
7回	幼児の体操のねらい③ ・正しい運動とフォームを理解する	体操の基礎的知識 指導法の理解
8回	幼児の身体表現運動 ・自発性や創造性の発達と各年齢の運動機能を知る ・ふさわしい教材と個々の発達段階を踏まえた的確な指導と援助を理解する	幼児の発達の理解 身体表現運動の意義
9回	身体表現活動のねらい① ・身近な素材を五感で感じて、イメージが膨らむ言葉掛けの重要性を理解する	運動機能の理解 身体表現の多様性
10回	身体表現活動のねらい② ・模倣表現からモチーフの確立と表現活動過程を理解する	豊かな感性 身体表現の多様性
11回	身体表現活動のねらい③ ・個々の発達段階を踏まえた的確な指導と援助方法を理解する	豊かな感性 指導法の理解
12回	幼児のフォークダンスのねらい ・世界の民族舞踊を知り、社会性の芽生えを培う集団活動であることを学ぶ	フォークダンス用語の理解
13回	保育表現研究発表会の鑑賞と観点*レポート課題 ・モチーフ、舞台構成、群舞について学ぶ	鑑賞マナー 舞台用語の理解
14回	まとめ ・保育者としての視点で授業を振り返る ・教科(個人)ノートのまとめと提出	自己評価 課題の明確化
試験	評価の要点に基づき授業内で実施する。	